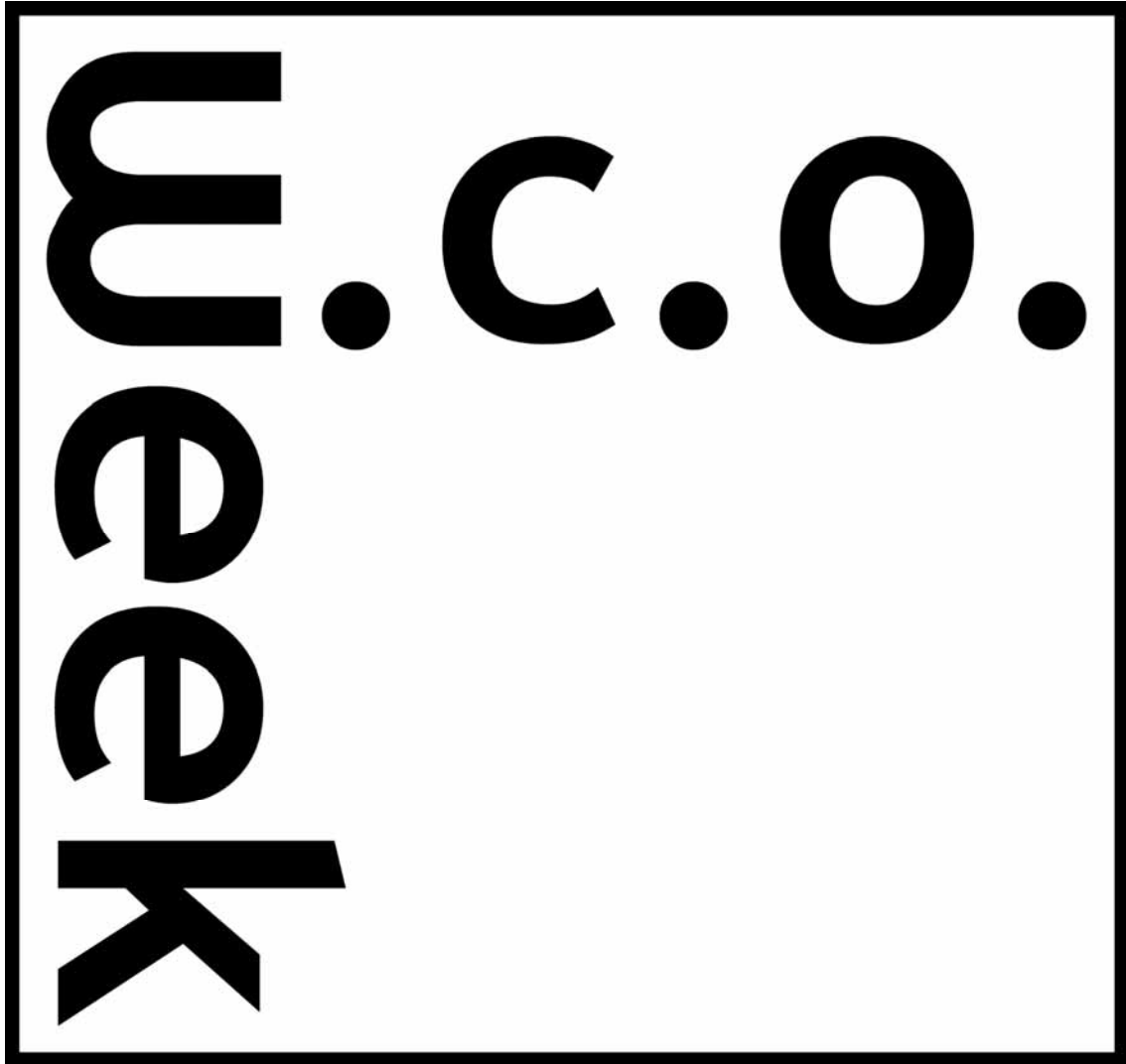


2004 年度 環境週間

活動報告書



～ 週間から習慣へ～

慶應義塾大学環境サークル E.C.O.

## -----目次-----

報告書の発行にあたって	3
-------------	---

<b>第 部 環境週間概要</b>	
-------------------	--

1. 環境週間とは	5
2. 開催概要	7
3. 開催企画	8

<b>第 部 実施企画詳細報告</b>	
---------------------	--

NEC環境講演会	10
Clean-up Project (1)	12
Clean-up Project (2)	14
化石が語る環境変化(講演会)	16
4大学合同パネルディスカッション	18
体験!自転車発電	21
エコギャラリー(パネル展示)	23
環境本のすゝめ	25
吸い殻実験	27
フラワープロジェクト	30
お世話になった方々	33
会計報告	34
2004年度環境週間総括	35
おわりに	38

## 報告書の発行にあたって

「塾生(学生)だけではなく、教員・職員も含めた、キャンパスに集う多くの人に広く環境問題をアピールする手段として、環境週間というイベントをやってみてはどうか？」

ある大学職員の一言から、環境週間は始まりました。「自分達で活動するだけでなく、キャンパスを利用する多くの人に、広く環境問題への興味を持ってもらいたい。」そんな想いを抱いて、私たち慶應義塾大学環境サークル E.C.O.は、過去2回の環境週間(2002年10月・2003年6月)を開催してまいりました。「環境問題」の捉え方は人それぞれであり、何が環境に良い、何が環境に悪いということもまた一概には言えません。しかし、数年先に社会に出ていく学生はもちろん、現代を生きる私たちにとって、「環境問題」という概念を無視して生きることにもまた不可能です。

そういった現状をふまえ、私たち環境サークルE.C.O.は、慶應義塾大学教養研究センター日吉行事企画委員会(HAPP)主催という新たな形のもと、2004年度も引き続き「環境週間」を開催しました。今年度はこれまでの様に特定のテーマは設けず、来場者/参加者の方々に、様々な視点から環境問題について「ちょっとだけ」考えてもらえるようなイベントを作り上げることを目的として、部員一同、精一杯取り組んでまいりました。

このたび、多くの方々のご協力のもと、無事に全日程を終了することができましたので、報告書を作成させていただきました。ご一読いただければ幸いです。これまでの経験の上に、更に充実したイベントの開催を目指して部員一同努力を重ねてまいります。本報告書の内容に加え、過去に開催された環境週間の報告書についても、当サークル公式ウェブサイト(<http://keioeco.net/>)でご紹介させていただいておりますので、併せてご覧いただくとともに、忌憚のないご意見を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

2004年度環境週間責任者  
経済学部2年 松井 直尚

副責任者  
商学部2年 亀山 大輔

---

第 部

---

# 環境週間概要

---

## 1 . 環境週間とは

環境週間とは、1週間にわたって環境に関する様々なイベントを開催し、慶應義塾大学の塾生（学生）・教員・職員の3者を中心とした多くの人に広く環境問題への興味関心を持っていただくという試みであり、2002年度から、塾内の公認団体である環境サークル E.C.O.がその企画運営の中心を担い、年に1度ずつ開催している。環境週間の詳細な理念、目的については次ページをご参照いただきたい。

### ・ — — — — 週間から習慣へ — — — — ・

環境週間全体を貫くコンセプトを端的に表すのが、このワンフレーズである。イベントをきっかけに来場者に環境問題への興味関心を持っていただき、身近なところから「環境」を意識する習慣を身に付けていただくことが環境週間のねらいである。

### ・ — — — — 学生だけではなく — — — — ・

イベントの企画運営を塾生(学生)・教員・職員の3者が一体となって行うということ、これも環境週間の試みの1つであり、今年度も環境サークル E.C.O.を中心に、塾内の他団体や教職員などと協力しての環境週間開催となった。今後もさらに塾内での輪を広げ、大学内の様々な主体との連携を強めていきたい。なお、今年度の環境週間は、大学の教職員で構成され、新入生歓迎行事の企画運営などを行っている「慶應義塾大学教養研究センター日吉行事企画委員会(HAPP)」主催のもとでの開催となった。

(HAPP についての詳細は [ページ](#)を参照)

### ・ — — — — テーマについて — — — — ・

今年度は特定のテーマを設けず、参加者 / 来場者に様々な視点から環境問題について考えていただける様なイベントを多数開催した。

## 6月 環境月間

1972年6月5日からストックホルムで開催された「国連人間環境会議」を記念して、6月5日は「環境の日」と定められている。日本の提案を受けて、6月5日は国連により「世界環境デー」と定められており、また日本では「環境基本法」で「環境の日」と定められている。「環境基本法」は「事業者および国民の間に広く環境の保全についての関心と理解を深めるとともに、積極的に環境の保全に関する活動を行う意欲を高める」という「環境の日」の主旨を明らかにし、国、地方公共団体などにおいて、この主旨にふさわしい各種の行事などを実施することとしている。我が国では、環境庁（現環境省）の主唱により、平成3年度から6月の1ヶ月間を「環境月間」として、全国で様々な行事が行われている。

この、「環境基本法」、「環境月間」の主旨をふまえ、我が慶應義塾大学でも「環境月間」中に、広く環境保全についての関心と理解を深めるような活動を行うことが望ましいであろうという認識のもと、「環境週間」というイベントを開催する。具体的には、6月のある1週間を「環境週間」として定め、1週間に渡って環境問題への関心と理解を深めることができるようなイベントを行うというものである。

## 理念

現代の私立大学の運営上、「魅力ある大学づくり」は必要不可欠である。また、我が義塾が社会全体に果たす役割を考えた際、大学という場において塾生（学生）が受ける影響の中に「環境」というキーワードが含まれている必要があると、私たちは考えている。

21世紀は「環境の世紀」とも言われている。たしかに、環境問題に対する考え方は様々であり、何が環境に良い、何が環境に悪いということもまた一概には言えない。しかし、塾生が「環境」という分野に対して多少なりとも意識を持って社会に出て行くことができるならば、それは大学が社会に貢献したと言えるのではないだろうか。

また、大学に集うのは塾生だけではない。塾生に加え、教員や職員を含めた大学全体で環境について考え、行動するきっかけを提供すること、それが「環境週間」開催の理念である。

## 目的

「環境週間」を実施するにあたって、具体的に以下のことを目的とする

「週間から習慣へ」のコンセプトのもと、塾生・教員・職員の3者を中心とした多くの人に、環境に関して「考えるきっかけ」と「行動するきっかけ」を提供する

慶應義塾大学の更なる環境へ取り組みを期待し、そのきっかけを作る

## 2 . 開催概要

**開催期間** 2004年6月21日(月)～6月26日(土)  
一部の企画は、環境週間の期間外にも実施

**開催場所** 慶應義塾大学日吉キャンパス

主催:慶應義塾大学教養研究センター日吉行事企画委員会(HAPP)  
協力:慶應義塾大学環境サークルE.C.O.

### 慶應義塾大学教養研究センター日吉行事委員会(HAPP)

#### H.A.P.P.とは?

H.A.P.P. (ハップ)とは、"Hiyoshi Arts and Performance Project"の略で、日本語では日吉行事企画委員会です。

#### H.A.P.P.の活動

日吉の新しい研究棟「来往舎」のイベントスペースに於ける、新入生歓迎行事を企画・運営しています。各種行事は教職員や学生のボランティアにより企画・運営されており、広く地域や社会に開放された参加型行事としても内外から高い評価を受けています。

#### H.A.P.P.の活動の主旨

新入生を中心に全学生を対象として、様々な企画を通じて多様な「智」の在り方を提示し、大学のみならず生涯にわたる「学習」の意味と可能性を考える機会を提供することを目指しています。各種行事は「心と体と頭と…」を総合テーマとして、平成6年度以降、毎年様々なイベントを運営しています。

(以上、公式ウェブサイトより抜粋) <http://www.hc.keio.ac.jp/happ/>

### 慶應義塾大学環境サークルE.C.O.

E.C.O.は「Environmental Conservation Organization」の略であり、慶應義塾大学文化団体連盟に加盟し、大学の公認団体として塾当局から公式に活動を認められている学生団体である。

「環境問題について考え、身近なところから行動していく」を活動理念に、環境週間の開催をはじめ、学園祭に於ける環境対策への協力及び環境関連企画の実施、キャンパス内の古紙回収活動推進、地域の小学校に於ける環境教育への協力(昨年度は川の清掃活動等を実施)、3Rプロジェクト等を行っている。また、部員の知識向上を目的とした勉強会の開催のほか、ゴミ処理工場や古紙再製工場の見学など、部員の興味に合わせた自由な活動も行っている。

公式ウェブサイト: <http://keioeco.net/>

### 3 . 開催企画

#### 企画一覧

- ・ NEC 環境講演会（講師：NEC 環境推進部統括マネージャー 宇郷良介氏）
- ・ Clean-up Project
- ・ 化石が語る環境変化（講師：慶應義塾大学経済学部教授 松原彰子氏）
- ・ 4 大学合同パネルディスカッション
- ・ 体験！自転車発電
- ・ エコギャラリー（パネル展示）
- ・ 環境本のすゝめ
- ・ 吸い殻実験
- ・ フラワープロジェクト

#### 環境週間中のスケジュール

企画の実施日程は以下の通り。 灰色部分が開催日

	6/21	6/22	6/23	6/24	6/25	6/26
NEC 環境講演会						
Clean-up Project						
化石が語る環境変化						
4 大学合同パネルディスカッション						
体験！自転車発電						
エコギャラリー						
環境本のすゝめ						~ 7/2
吸い殻実験	環境週間中は開催しない。					
フラワープロジェクト	環境週間中は開催しない。					



第 部

# 実施企画詳細報告

# NEC(日本電気株式会社)環境講演会

～NEC環境推進部統括マネージャー 宇郷良介氏による講演会～

## 企画概要

【実施日程】6月21日(月) 18:30～19:45

【実施場所】日吉キャンパス第4校舎 J19 教室

【企画内容】NEC環境推進部の宇郷良介氏をお招きし、「環境問題を考えるとはどういうことなのか。」「環境問題について考えることの重要性。」の2点について講演してもらった。

【企画目的】環境問題を考えるというと、地球温暖化問題のように、どこか自分とは疎遠に思える問題が取り上げられることが多い。そこで、そもそも環境問題を考えるとはどういうことであるのか、そしてそれが本来1人1人の生活にどれほど深く関わる問題であるのか、という2点について、企業という場で実際にご活躍なさっている宇郷氏の講演を通じて、来場者に認識してもらうこと。

## 企画報告

### 講演内容

環境問題を考えるとはどういうことなのか、そしてその重要性の2点について、資料を用いつつお話いただいた。途中何度か来場者クイズを投げかけ、それを通して意見を求めるなど工夫がこらされた内容で、「参加型講演会」ともいえる充実した内容であった。環境問題がいかに1人1人の生活様式と関わりがある問題であるのかということ由来場者に認識してもらったであろう。

### 来場者数

1年生	22名
2年生	10名
3年生	3名
4年生	1名
その他	4名

---

合計 46名

その他は、教職員・院生・高校生・不明などの合計

## 来場者の声 - アンケートから

- ◆ 視界が広がった気がしました。自分と環境とのつながりが大切だと思いました。これからは自分でよく考え、実行していきたいと思います。(文学部1年)  
環境問題とは、一人一人の「生き方」そのものである、という宇郷さんの言葉を聞いて、色々目が覚める点がありました。(文学部1年)  
環境についての考え方はもちろん、もっと広い意味でのものの考え方をするきっかけになり大変有意義であった。ぜひ今後もこういう企画を続けて欲しい。(法学部1年)

## 当日の様子



## 考察

台風という当日の悪天候の中にも関わらず多くの人が足を運んだという事は、講演会のテーマや、企業の方の講演会に興味を持つ人が少なからず存在するということが分かる。しかし、アンケートの中に、「企業の環境への取り組みを生の声で聞きたい」という意見もあり、このような意見にも応えていく必要性がある。企業の環境への取り組みをメインテーマに据えた講演会や、2部構成の講演会(今回の様な講演と、企業の取り組みについての講演の2本立て)など、聴講者の多様なニーズに応える講演会を追求していくべきであろう。

# Clean-up Project (1)

---

## 企画概要

【実施日程】6月22日(火) 15:00～16:15

【実施場所】日吉商店街～日吉キャンパス並木道・陸上競技場  
一部校舎地域

【企画内容】定期的に日吉商店街の清掃活動を実施している慶應義塾大学体育会蹴球部と連携し、日吉の清掃活動を実施した。

【企画目的】清掃活動を通して普段慣れ親しんだ日吉の街や日吉キャンパスを綺麗にしつつ、参加者が日吉のゴミのポイ捨ての現状を知ること。また、集団で清掃活動を行う姿を通して、一般人にゴミのポイ捨てについて意識してもらおうと同時に、ゴミのポイ捨て防止のアピールをすること。

---

## 企画報告

### 当日の流れ

- 
- |       |  |
|-------|--|
| 15:00 | 日吉記念館前に集合  |
| 15:05 | 体育会蹴球部/環境サークルE.C.O.がそれぞれ<br>日吉商店街：体育会蹴球部<br>並木道・陸上競技場：体育会蹴球部/環境サークルE.C.O.<br>を担当し、さらに小グループに分かれてグループごとに清掃活動を実施。 |
| 16:00 | 日吉記念館前に集合し、集めたゴミを「燃えるゴミ」「カン・ビン」「ペットボトル」などに分別。その後集積場にゴミを移動。   |
| 16:15 | 解散   |
-

## 参加者数

体育会蹴球部 約 100 名

環境サークル E.C.O. 約 15 名

## 当日の様子



## 考察

「環境週間」をきっかけに、塾内の他団体と協力して活動を行うことができ大変良かった。ポイ捨てをしていた塾生に実際に注意を呼びかけた人もいたようで、少なからずポイ捨て防止へのアピールになったと思われる。体育会蹴球部は定期的に日吉商店街の清掃活動を実施しているが、今後は他の団体にも活動への参加を呼びかけ、塾内での輪をさらに広げていくことも視野に入れたい。

また、たくさんのゴミがポイ捨てされていたが、中でもタバコの吸い殻が特に目に付いた。一部の塾生のモラルの低さを感じるとともに、大学が進める歩行禁煙や分煙などの周知徹底が必要だと感じる。

# Clean-up Project (2)

---

## 企画概要

【実施日程】6月26日(土) 13:00～14:15

【実施場所】日吉キャンパス並木道・陸上競技場・校舎地域  
まむし谷

【企画内容】Clean-up Project(1)を足がかりに、慶應義塾大学体育会所属の各部と協力し日吉キャンパス内の清掃活動を実施した。

【企画目的】清掃活動を通して普段慣れ親しんだ日吉キャンパスを綺麗にしつつ、参加者が日吉キャンパスのゴミのポイ捨ての現状を知ること。また、集団で清掃活動を行う姿を通して、一般人にゴミのポイ捨てについて意識してもらおうと同時に、ゴミのポイ捨て防止のアピールをすること。(1)とほぼ同様。

---

## 企画報告

### 当日の流れ

- 
- |       |  |
|-------|--|
| 13:00 | 日吉記念館前に集合  |
| 13:00 | 体育会各部、環境サークルE.C.O.合同で小グループを作り、グループごとに清掃活動を実施。              |
| 14:00 | 日吉記念館前に集合し、集めたゴミを「燃えるゴミ」「カン・ビン」「ペットボトル」などに分別。その後集積場にゴミを移動。 |
| 14:15 | 解散   |
-

## 参加者数

体育会各部 約 50 名

環境サークル E.C.O. 約 30 名

## 当日の様子



## 考察

土曜日の実施ということで、一般の塾生へのアピール効果はそれほどなかった様に思われる。ただし、参加者に日吉キャンパス内のゴミのポイ捨て状況について認識してもらった点では、意義があったであろう。全体として、特に校舎付近に多くのゴミがポイ捨てされていた。「ゴミをポイ捨てしない」というのは本来当たり前のことであり、ポイ捨てをするのは一部のモラルの低い学生であると思われる。

塾生が捨てたゴミを誰が掃除しているのか？———無論、清掃業者の方々である。自分達が出したツケを他人に押し付けているような現状は許されるものではないだろう。当たり前のことであるからこそ、その意識を変えていくのは非常に困難であるが、今回のような活動をさらに広く知ってもらうことで、キャンパス全体で「ポイ捨てをさせない雰囲気」を作り出していくことが重要である。

# 化石が語る環境変化

～ 経済学部教授 松原彰子氏による講演会 ～

## 企画概要

【実施日程】6月23日 16:45～18:00

【実施場所】日吉キャンパス第4校舎 J11 教室

【企画内容】慶應義塾大学経済学部教授の松原彰子氏をお招きし、「化石が語る環境変化」というタイトルでお話してもらった。

【企画目的】現状や未来の予測に関することとなく目がいきがちな環境問題を「化石」という視点から捉えなおすことで、現在に至るまでの過去の流れの中で環境問題を捉えるという、環境問題に対する新しい視点を聴講者に提供すること。

## 企画報告

### 講演内容

化石が語る地球環境変成について、花粉化石や有孔虫化石によって復元された環境変化の例を軸に、歴史資料を提示しつつ分かり易くお話して貰った。また、講演の最後に、「未来の化石が現在の我々の地球環境に対する態度を示すものだ」とお話くださり、聴講者にとって、現在の自分自身の地球環境に対する考え方、姿勢を改めて考え直すきっかけになったであろう。

### 来場者数

1年生	8名
2年生	11名
3年生	1名
4年生	3名
その他	9名

---

合計 32名

その他は、教職員・院生・高校生・不明などの合計



## 来場者の声 - アンケートから

あまり自然環境、地形、環境問題に関わりが無いような動植物の遺骸（化石）等によって、新たな側面から新たな発見と考え方ができる。これはとても面白く、自分にとってこれから着目していかなければならないし、着目していきたいと思いました。過去を良く知り、未来のことを考えつつ、現在を見、自分の成すべきことをしていきたいと思います。（高校一年生）

## 当日の様子



## 考察

塾生、教員、職員が一体となって環境問題を考えるきっかけを作る。これは環境週間の全ての企画に通じるものであるが、残念ながら実際に訪れてくださった教職員の方は多くなかった。このことから、広報方法や開始時間について再考の余地がある。これに対する改善方法としては、環境週間前に限定せず、普段から我々E.C.O.の活動を教職員の方々にアピールし、認識度を向上させること等が考えられる。

## 4 大学合同パネルディスカッション

### 企画概要

【実施日程】6月25日(金) 18:10~19:30

【実施場所】来往舎シンポジウムスペース

【企画内容】上智大学、東京大学、早稲田大学、慶應義塾大学の4大学5キャンパスから、環境問題に取り組んでいる5人の学生を集め、パネルディスカッションを行った。

【企画目的】環境問題に取り組んでいる5人の学生パネリストの様々な体験談や意見を通して、既に環境問題に関心を持っている人に、関心を持つことだけで満足せず、行動するきっかけを提供すること。

### 企画報告

#### 当日の内容

パネリストの大学や所属するサークル(団体)の環境への取り組みをはじめ、環境問題に興味をもったきっかけやそれに伴う変化についてなどの話をした。また、『理想のキャンパス像』について討論し、これからの環境問題のあり方についても考える場を設けた。

#### 当日のプログラム

1. 日吉キャンパス事務長の御挨拶
2. パネリストの自己紹介、所属しているサークル(団体)・大学の活動紹介
3. パネリストがサークルに入ったきっかけ、また入ったことによる変化
4. 討論「理想のキャンパス像とは」
5. パネリストから感想を一言
6. 「自分にとって、環境とは何か？」という問いにパネリストが一言
7. 質疑応答

## 司会・パネリスト一覧

### パネリスト

- ・岩城 志記 (ANGLEs/上智大学/2年)
- ・岡崎 雄太 (Green Campus Project/慶應義塾大学 SFC/1年)
- ・下川 倫史 (学生環境 NPO 環境ロドリゲス/早稲田大学/2年)
- ・広瀬 雄一郎(環境三四郎/東京大学/2年)
- ・相良 恵里 (環境サークル E.C.O./慶應義塾大学日吉/2年)

### コーディネーター

- ・今井 寛(環境サークル E.C.O./慶應義塾大学日吉/2年)

## 来場者数

1年生	11名
2年生	23名
3年生	5名
4年生	2名
その他	2名

---

合計 43名

その他は、教職員・院生・高校生・不明などの合計

## 来場者の声 - アンケートから

他大の活動などを知り、他の来場者の満足した様子が見受けられた。

どの分野も「環境」という観点とつなげていくことができるのではないかとこのパネリストの言葉に共感した。

## 当日の様子



## 考察

パネルディスカッションの時間は 80 分あったが、「時間不足である」という声も聞かれた。時間不足と思われてしまったということは、内容の吟味が不足していたと考えられる。これはパネリストの考えと司会の連携がうまくいっていなかったことを露呈してしまったのであろう。だが、このパネルディスカッションを通して、新たな視点から「環境」に興味を持った人もいた。

様々な話題でパネリストに話していただいた結果、「環境」、「環境」と世間で言われてはいるものの、何をすればわからない方に、「きっかけ」を与え、行動してもらうための橋渡しができたと思われる。

# 体験！自転車発電

## 企画概要

【実施日程】6月21日(月)～25日(金) 12:15～13:00

(但し月曜日は14:30まで)

【実施場所】来舎イベントテラス

【企画内容】来舎イベントテラスに自転車発電装置とそれによって生み出される電気で動く機器を設置し、実際に自転車発電を利用してこれらの機器を動かしてもらった。

【企画目的】多くの方に普段何気なく使っている電気の大切さを理解してもらおうこと。

## 企画報告

### 実施日程詳細

6月21日(月)

準備開始時間 11:45

実施時間帯 12:15～14:30

撤収終了時間 14:45

6月22日(火)～25日(金)

準備開始時間 11:45

実施時間帯 12:15～13:00

撤収終了時間 13:15

### 来場者数

6月21日(月) 5人

6月22日(火) 7人

6月23日(水) 12人

6月24日(木) 4人

6月25日(金) 9人

合計 37名

6月21日は小型扇風機・可動型人形を  
6月22日～25日は上記に加えてラジカセ  
をそれぞれ自転車発電によって稼働させ  
た。

## 当日の様子



## 考察

企画の始動が遅く、準備が直前までかかってしまったが、日本科学未来館の協力によってなんとか無事企画を成し遂げることができた。しかし、来場者に電気の大切さを理解してもらい、という本来の目的が達成できたかどうか？という点では疑問が残る。また一般塾生が参加しやすい雰囲気作りができていなかったという指摘もあり、反省は尽きない。しかしながら環境週間全企画中唯一の“体験型”企画として、及第点をつけるに値する企画となったのではないかと思われる。

## 協力

日本科学未来館

# エコギャラリー

## 企画概要

【実施日程】6月22日(火)～26日(土) 11:00～18:30

(但し最終日は14:30まで)

【実施場所】来往舎2階 ギャラリー

【企画内容】身近な環境問題であるゴミやリサイクル問題を、慶應義塾の現状と合わせて取り上げ、部員の手によるポスター展示を来往舎ギャラリーにて行った。

【企画目的】多くの方に環境問題、特にゴミやリサイクル問題の現状について知ってもらうこと。

## 企画報告

### 展示内容

以下のポスターを展示した。

-----  
ビン・カン・ペットボトルの比較と現状  
エコ的なトリビア

ペットボトルについて

ごみの分別について

コアレックス東京工場見学記

-----  
尚、ポスター以外にも、ペットボトルの身近なりサイクル品として理工学部システムデザイン工学科の学生が実験時に着用するSDジャンパーを、古紙リサイクルの実物としてトイレトペーパー及びそのホルダーなどを展示した。

### 来場者数

展示会場に係員を常駐させていなかった為に正確な人数は把握できないが、教員の方々も含め、多くの方が足を運んでくれた。

### 来場者の声 - アンケートから

慶應内の電気・水道・ガス使用量など、身近な事でもあまり良く知らない事が面白く(?)簡潔に表していて、とても良かったです。

カラフルで面白かった。かなり役に立ちました。

はしの1年間の使用量が、意外と多くて驚きました。

## 当日の様子



## 考察

図表や絵が少ないというご指摘は頂いたものの、全体としては、1年生のがんばりにより見やすいポスターを作成することができたと考える。また、来場した方には概ね満足いただけたようだ。ただし、来往舎ギャラリーは決して見やすい位置にあるわけではないので広報を充実させなくてはならなかったが、結局企画独自に行った広報は立看板のみであった。よって周知が不足した面は否めず、この点は今後の課題となろう。



# 環境本のすゝめ

共催：日吉メディアセンター

## 企画概要

【実施日程】6月21日(月)～7月2日(金)

平日:8:45～21:00

土曜:8:45～18:00

(メディアセンターの開館時間帯。日曜日は休館)

【実施場所】日吉メディアセンター 1階入り口の展示ケース

【企画内容】「分煙」と「3R」という2つの独立したテーマを軸に、関連書籍と、企画担当者がそれらを読んだ上でまとめた各書籍のプロット、分煙と3Rの説明文を展示したほか、横浜市の進めるG30プランや、吸殻企画(詳細は吸い殻企画のページを参照)の概要と調査結果を展示した。

【企画目的】より多くの塾生に環境問題に興味を抱いてもらうこと。具体的には、昨年度から大学が取り組んでいるキャンパス内分煙に対する注目の促進と、3Rという概念を一般の塾生に理解してもらうことを目的とした。

## 企画報告

### 展示書籍一覧

#### ---分煙関連書籍---

『「タバコ病」禁煙・分煙のすすめ』	渡辺文学、緑風出版、2000
『現代たばこ戦争』	伊佐山芳郎、岩波新書、1999
『たばこで他殺、たばこで自殺』	宮崎恭一、女子栄養大学出版、2000
『モク殺モク視せず』	菌潤、神戸新聞総合出版センター、2001
『禁煙外来』	阿部真由美、芳賀書店、1999
『タバコをやめられないあなたへ』	高橋裕子、東京新聞出版局、2000

---3R 関連書籍---

- |                                    |                   |
|------------------------------------|-------------------|
| 『絵コロジ－；地球に優しく暮らすための絵本』             | 高月紘、合同出版、2002     |
| 『身近なリユース、リサイクル;人と環境と資源<br>の明日を考える』 | 山田次郎、一橋出版、2002    |
| 『一秒の世界』                            | 山本良一、ダイヤモンド社、2003 |
| 『環境社会キーワード 3R、クリーンジャパンセ<br>ンター編』   | 経済調査会、2002        |

### 当日の様子



### 考察

企画の始動が遅かった、展示物に誤字があった等の反省点は多々あるが、今回の展示は概ね好評だったようだ。時折展示ケースの中を覗いていく学生の姿も見られ、知名度は依然として低かったものの、ある程度の注目は集められたのではないかと考える。ただ、それはあくまで問題意識を持つ学生に限られていると思われるので、今後の課題として、いかに今まで環境問題に興味がなかった学生の関心をひくか、というものが残る。また展示に際して、装飾にエコ的な配慮（再生紙、新聞紙を使う、など）を行うことが出来なかったため、次回以降はそういった細かい点にも気を配っていききたい。

# 吸い殻実験

## 企画概要

- 【実施日程】5月27日(木)~6月2日(水) 5月30日(日)は除く  
【実施場所】並木道(中程まで) メディアセンター前、第4校舎前  
【企画内容】塾生が登校する前、午前8時より日吉キャンパス内において吸い殻をはじめとする清掃作業を実施した。  
【企画目的】日吉キャンパスは昨年4月よりキャンパス内歩行禁煙が実施されたが、現状はそれとは程遠い。そこで塾生が登校する前の早朝にゴミをすべて拾いきり、ごみを捨てにくい状態を作るとともに、ポイ捨ての多いゴミの代表として吸い殻を取り上げ、その本数を数えることで1週間の変化を観察すること。

## 企画報告

### 実施日程詳細

5月27日(木)~6月2日(水)

#### 清掃作業

集合時間 8:00

実施時間帯 8:10~8:40

解散時間 8:45

#### 集計作業

実施時間帯 8:45~9:10

### 集計結果

	本数	前日の天気
5月27日(木)	791	晴れ
5月28日(金)	806	晴れ
5月29日(土)	690	晴れ
5月30日(日)	-----	晴れ
5月31日(月)	175	晴れ
6月1日(火)	373	晴れ・夜半過ぎより雨
6月2日(水)	694	雨・昼過ぎより雨
平均	504	

～Eco Week 2004～

## なぜポイ捨てされるのか？

下を見ながら歩いてみると、実は結構多くのゴミが落ちていないことに気づきます。なぜポイ捨てされてしまうのでしょうか？「モラル」の一言では片付けられない、何かがあるのではないのでしょうか。そこで、ひとつの仮説を立てました。

### 「ポイ捨てされるのは、既にポイ捨てされたゴミがそこにあるから」

この仮説のもと、5月27日（木）から6月2日（水）にかけて、塾生が登校する前にゴミを全部拾いきてみました。そのなかで吸殻の本数を数えてみると、以下のようになりました。

	本数	前日の天気
5月27日(木)	791	晴れ
5月28日(金)	806	晴れ
5月29日(土)	690	晴れ
5月30日(日)	——	晴れ
5月31日(月)	175	晴れ
6月1日(火)	373	晴れ・夜半過ぎより雨
6月2日(水)	694	雨・昼過ぎより雨
平均	504	

早朝に拾っているのです、この本数は前日の分ということになります。月曜日が少ないのはやはり土・日に登校する塾生が少ないからでしょう。一般の人でも通り道として利用されている日吉キャンパスですが、これでポイ捨てしている人はほとんど塾生だと証明されてしまいました。

水曜日の前日は昼ごろまで雨でしたが、それでも結果は週の前半とあまり変わりはありません。ということで、ポイ捨ては昼過ぎから多くなるということ

でしょうか。

最後に気になるのが火曜日。前日が平日にもかかわらずなぜか少なくなっています。雨で流れた・拾うときに雨だったのが拾い忘れが多かった・・・などが考えられますが、やはり5月31日は慶早戦後で比較的休講の授業が多かった（自主休講も？）ことも考えられるでしょう。

さて、一週間の平均は504本でしたが、箱では25箱です。それだけのタバコが毎日のようにポイ捨てされているわけです。

**自分が学んでいる日吉キャンパスだから、少しでもキレイでいてほしい。**

そんな風に思いませんか？

環境週刊2004 吸い殻実験企画

主催：教養研究センター日吉行事企画委員会

協力：環境サークルE.C.O.

## 考察

集計結果は当初想像していたよりもはるかに多いものとなった。ただしこれでも日吉キャンパスのごく一部であり、キャンパス全体では想像を絶する量となろう。これは普段から環境に関する活動をしている我々でも衝撃だった。「を捨てにくい状況を作る」ことでごみを減らすという目的は、残念ながらやはり1週間では達成できなかったが、吸い殻の量を数値として表せただけでもひとつの成果といえるだろう。

今後はこの結果をより多くの塾生に広めていくこと、そしてキャンパス内分煙に向けた我々の活動の基礎データとして活用していくことが望まれる。

## 協力

用務員の方々

# フラワープロジェクト

---

## 企画概要

【実施日程】沈丁花(じんちょうげ)：6月5日(土)

花の種：6月17日(木)

【実施場所】沈丁花：並木道、

花の種：第4校舎前の花壇

【企画内容】沈丁花の苗、および、アスター・コスモス・マリーゴールド・ラベンダーの種を大学内に植える。

【企画目的】花を植えることによって大学内の環境の美化をはかり、更に、ゴミを捨てにくいような環境に改善することで、ポイ捨ての防ぐこと。

---

## 企画報告

### 実施内容詳細

#### 沈丁花(じんちょうげ)

穴を掘った日：5月24日(月) 13:10~14:30

苗を植えた日：6月5日(土) 13:20~15:00 (13:10 集合、15:15 解散)

---

慶應義塾出入りの植木屋「植鹿」さんのご指導のもと、部員約20名の手で、計15本の沈丁花を植えた。4~5人のグループにわかれ、それぞれの班で協力し、一本一本沈丁花を植えていった。穴は前もって掘っておいたため、当日は穴を掘返し、苗木を植える作業が行われた。苗木が傾かないように細心の注意を払ったり、枯れないように水鉢をつくったりするなど、本格的な作業となった。

---

## 花の種

---

種を植えた日：6月17日(木) 18:10~20:00 (18:00 集合、20:30 解散)

---

アスター・マリーゴールド・ラベンダー・コスモスの種を植えた。

作業としては、花壇の土を掘り起こし、雑草を抜き、土をよく均した後、種を蒔いて土をかける、というものである。花壇の土は石を多く含んでおり、あまり状態の良い状態ではなかったが、肥料などは加えず、そのままの状態で行った。

---

## 今後の動向

種および沈丁花に定期的に水をやる。この点に関して、種に関しては1ヶ月を経過しても芽が出ないため、一時水やりを中止し、もう一度植え直すか検討する。また沈丁花については、1週間に2回のペースで水やりを続ける。

## 当日の様子



## 考察

キャンパスをきれいにしようという発想から生まれたのがこの企画であるが、実際に花を植えてみると、物理的な変化というよりは、内面の変化を得られるものであった。

環境問題は一日で解決することはほぼ不可能である。これはこの企画に関しても言えることであり、たった一区画に植物を植えたからといって、大学内の環境改善を達成できる見込みは残念ながら少ない。しかし、大事なのは「改善していこう」とする意思を持つことであり、それを行動に移すことにあると考える。実際に、私たちはこの企画を

実行するにあたり、多くのことを学んだ。キャンパスのごみの状態や、改善すべき点を知ることができた。また、一番大きな変化といえば、花や木を植えたことで、その区画だけであっても、キャンパスの状態に関心が向くようになったということである。つまり、今までは、周辺環境と同化し、「背景」として捉えられていたキャンパスが、水やりや花の管理を意識する事によって、環境問題の対象として見られるようになった。

このように、大学の環境問題を考える上で、フラワープロジェクトはひとつの足がかりになったのではないかと思う。

最後に、植物に関する企画を環境週間中に実行するという事は、予想以上に難しい。ひとつの命を扱う以上、植えるという作業だけでなく、以後の管理が必要不可欠だからである。この企画は「環境週間」という枠組みに留まらず、これから継続していくことで、はじめて効果が現れる企画であろう。

## 協力

植鹿



# お世話になった方々

今年度の環境週間の開催にあたって、惜しげのないご協力を賜りました多くの方々に、この場をお借りして部員一同深く御礼を申し上げます。

(団体)

- ・ 植鹿
- ・ 慶應義塾大学体育会
- ・ 慶應義塾大学体育会蹴球部
- ・ 慶應義塾大学日吉メディアセンター
- ・ 日本科学未来館

(個人)

- ・ 宇郷 良介氏(NEC CSR 推進本部環境推進部統括マネージャー)
- ・ 土田 平和氏(慶應義塾大学日吉運営サービス担当)
- ・ 松原 彰子氏(慶應義塾大学経済学部教授)

(50音順)

# 会計報告

	日吉行事企画委員会協賛金		10,000	
	印刷代	550		
	印刷用紙代	346		
	写真代	4,565		
	切手代	160	5,621	
講演会	ポスター印刷代	850		
	交通費	2,320	3,170	
4 大学合同パネルディスカッション	パネリスト交通費	2,940		
	ビデオテープ	304	3,244	
体験!自転車発電	交通費	1,730		
	自転車輸送代	27,726		
	ポスター印刷代	1,000		
	扇風機	1,344		
	雑費	1,234	33,034	
エコギャラリー	材料費	3,150		
	展示物印刷代	8,500	11,650	
環境本のすゝめ	装飾材料	987	987	
吸い殻実験	軍手	210		
	謝礼	1,050	1,260	
フラワープロジェクト	宣伝看板(カード)	200		
	じょうろ	892		
	雑費	1,200	2,292	61,258
				<u>51,258</u>

# 2004 年度環境週間総括

## 今年度の成果

---

環境週間も今年度で3回目を迎え、僅かずつではあるが、塾内でのイベントへの認知度も向上してきている様に思われる。1年目はゼロからスタートしたこのイベントが、2年目は日吉キャンパス主催という形を実現した。「さあ、3年目は何が出来るか？」そんな期待と不安の中での開催となった今年度の環境週間であるが、着実に進歩の足跡を残すことができたといえよう。

### ◆————— 塾内での環境週間の広がり —————◆

これまでの日吉メディアセンター(図書館)との協力に加え、慶應義塾大学経済学部教授・松原彰子氏による講演会の開催や、体育会蹴球部、及び体育会と協力しての日吉清掃活動の実施など、大学内で環境週間の裾野を広げることができた点が、今年度の環境週間の大きな成果といえる。特に、体育会蹴球部は通常から日吉商店街の清掃活動を行っており、このような団体と足並みを揃え協力していくことができたことは大変意義深いことであった。土曜日の Clean-up Project には、体育会に加え慶應義塾高等学校からも若干の参加者が集まり、環境週間の輪がまた1つ広がった。これは、「塾生(学生)・教員・職員の3者が一体となってイベントを企画運営し、」イベントを通じて、「塾生・教員・職員の3者を中心とした多くの人に、環境に関して考えるきっかけと行動するきっかけを提供する。」という、環境週間の目指すところにも繋がるものである。

### ◆————— 企業人を日吉にお招きしての講演会 —————◆

昨年度の三田環境週間に於ける「東京電力環境シンポジウム」に引き続き、今年度は日吉キャンパスに於いて「NEC 環境講演会」を開催した。3~4年生が中心の三田キャンパスに比べ、1~2年生が中心の日吉キャンパスは、企業の方のお話を聴く機会がそれほど多くない。しかし、大学という場の特性上、学生の企業への関心は日吉キャンパスに於いても決して低くはなく、気軽に企業人の話を聴くことのできる機会を提供するという意味で、意義のある企画であった。社会で実際に活躍されている方の話を通して、「環境」という分野がいかに関わるものであるかを意識して貰ったように思う。

## ◆ バランスの取れた環境週間 ◆

講演会や展示系企画に加え、実際にキャンパス内の環境を改善させる効果を持つ「Clean-up Project」・「フラワープロジェクト」、参加型企画である「体験!自転車発電」など、多様な性格の企画を開催できたという点で、昨年度同様バランスの取れた環境週間になった。

## 今年度の反省

この様に着実に進歩を遂げた 2004 年度環境週間ではあるが、当然改善すべき点もある。ここからは、環境週間終了後に部員が書いた反省を所どころ紹介しつつ、今年度の環境週間を振り返りたいと思う。

## ◆ 集客力の不足 ◆

環境問題を扱うときによくある問題だが、インパクトが弱いと思った。その点は来年、特に力を入れて改善したい。

新たな教職員との繋がりができて、良かったと思う。しかし同時に、塾生への周知の困難さを再確認した。

(講演会企画について) 講演会を聞きに来るお客さんは、おそらく元から環境について問題意識を持っている人だろうから、こういう講演会でまったく関心のない人にアピールをするのは難しいと思った。

より多くの方にイベントに参加していただくこと、またイベントを通して「環境」について考えていただくこと、これがイベントを開催する上で重要であることは言うまでもない。各企画によって若干事情は異なるが、全体を通じて未だ充分満足のいくほど多くの方にイベントに参加いただいているとは言えず、この点は重く受けとめている。この点を改善すべく、イベント対象者のニーズを的確に捉え、また、これまで以上にインパクトのあるイベントを企画することが当面の最優先課題であり、また終わりのない課題でもある。加えて、如何にして環境問題への興味が薄い人にイベントに参加してもらうか、これもまた今後の重要な課題である。環境問題は、その「環境」という言葉の多様性、多義性が示すように、日常生活の多くの場面に関わってくる、非常に入り口の広い問題である。そしてそれは同時に、きっかけ次第で誰もが興味を持つことの出来る問題でもある、ということであり、その特徴を上手く活かしたイベントの企画を行っていききたい。

◆————— さらに入念に準備を —————◆

期間中はなにかと忙しく、準備不足のまま始まってしまった企画などもあり…  
環境週間が始まるまでに、その一週間のことを十分にシミュレーションしていくべき  
でした。たった7日間しかない環境週間をベストの状態を進めていくためには、週間  
前から先手、先手で対処していくよう心がけなければいけません。

イベントの準備に関して、少なからず至らない点があった。イベントは、企画自体の  
準備が終わった時点で準備が完了するわけではなく、広報活動、スタッフの動きなども  
含めた本番の動きなど、さらに入念に準備をする必要を強く感じた。ある程度余裕を持  
って企画を準備し、直前は本番の流れの確認や広報活動に集中することが望ましいとい  
うことが、今年度の大きな教訓として挙げられる。

## おわりに

環境週間も正式に大学から承認されたイベントとなり、私どもの知るところ、知らないところで多くの方々が環境週間の為にご尽力くださったことと思います。特に、日吉キャンパス運営サービス担当の土田平和氏には、環境週間の全企画にわたって貴重なご意見、ご協力を賜りました。重ねて御礼申し上げます。

環境週間は、イベントの参加者の環境意識向上を目的とした場であります。しかし同時に、イベントの企画運営を中心となって行う私たち環境サークル E.C.O. の部員一同にとっても、サークル外の様々な方と触れあい協力する過程で、多くのことを学ばせていただく場であり、また、参加者の 1 人として環境問題への意識を高める場でもあります。

今年度の開催にご協力いただいた多くの方々のご期待に応える為、また何より自分たちが今以上に納得のできるイベントを開催する為、「去年より今年。今年より来年。」という向上心を持って、その年その年にできることを、これからも地道に行ってまいります。これまでと変わらぬご協力を賜りますよう、宜しく願いいたします。

なお、蹴球部と協力してのClean-up Projectに関しては、6月23日(水)の読売新聞朝刊にて紹介されました。こちらに関しては記事内容を環境サークルE.C.O.公式ウェブサイトにて掲載しておりますので、ぜひご覧下さい。( <http://keioeco.net/> )

環境サークル E.C.O.

## 環境週間 2004

主催：慶應義塾大学教養研究センター日吉行事企画委員会（HAPP）

URL：<http://www.hc.keio.ac.jp/happ/>

協力：慶應義塾大学環境サークル E.C.O.

URL：<http://keioeco.net/>

環境週間公式ウェブサイト：<http://ecoweek.keioeco.net/>